

Hanzawa, M. (1963): Studies on the inter-relationship between the sea and the atmosphere (Part 5)- Sea surface temperature anomalies in connection with the incoming incident radiation anomalies.

Oceanogr. Mag. Vol. 14, No. 1. 1 - 14.

Hanzawa, M. (1963): Preliminary report on the abnormal oceanic conditions in the seas adjacent to Japan in the winter of 1963. 日高教授還歴記念論文集 (Awaiting publication).

市 榮 　　　　　・ ジョーゼフ . R . ピーターセン (1 9 6 3) : 赤道
地方中部太平洋の乾燥帯における 1 9 5 7 ~ 5 8 冬期の異常
降雨

気象集誌 第 II 集 4 1 卷第 3 号 1 7 2 ~ 1 8 2 頁

Private communications of Drs. B. V. Hamon, G. A. Flittner,
M. Rodewald, M. K. Robinson, O. E. Sette, and T. Saur.

8. 巨視的にみた本年の異常海況

進 士 福太郎 (気象庁)

半沢が中部および北東太平洋、アメリカ西海岸、オーストラリアおよび北海方面の状況を述べたので、私は日本近海の本冬からの推移を追加し参考に供したい。

本年冬春、岸よりの異常海況がクローズアップされたので、沿岸水温の経過から入ることとする。

南西諸島から北海道までの旬平均沿岸水温の年間偏差図を作つてみると、本年冬春、表日本では小名浜と宮古の間を境にして、北側は高温南側は低温、裏日本では相川（佐渡）付近を境にして表日本同様北高南低で、その変動は表日本と同じく同時に行なわれていて、同期の気圧配置とよく一致している。

次に、沖合の状況を知るため日本近海の月平均表面水温の偏差図を作つてみると、本年冬春には正偏差域は東日本の沖合のみで、ほかの水域は負偏差域となつている。6、7月には南日本の水域が正偏差に変わり、負偏差域は三陸南部から鹿島灘沖合の水域のみとなつて持ち直つたかにみえる。8月には南日本の水域が負に変わり、9月には春頃の偏差分布にもどつている。

次に、鉛直的の概要を知るため、冬春の日本近海における100m層の水温偏差図を作つてみたところ、1961年、'62年の同期より $36^{\circ}\sim 37^{\circ}\text{N}$ 以北、 145°E 以東の水域の水温が本年冬春期高く、ほかの水域の水温は日本海を含めて低い。'58年の冬春と較べてみると、やはり $37^{\circ}\sim 38^{\circ}\text{N}$ 以北（日本海も含む）の水域の水温が本年高く以南の水域の水温は低い。

また、1957年からの冬春期の東日本（ $38^{\circ}30' \sim 42^{\circ}31'\text{N}$ ， $142^{\circ}30' \sim 149^{\circ}\text{E}$ ）の100m層における水温の平均値を算出した結果も、 6.2°C で高温年の部に入つている。

しかしながら、初秋の日本近海の100m層の水温は'62年の同期の水温より日本海を含めた全水域が低めとなつている。

以上が日本近海の水溫経過の概要であるが、

先述した表面水温偏差の逆転および初秋の100m層水温が'62年の同期に較べ全水域低温であることなどから、なお、要注意の状態にあるように思われる。